

2014年1月19日開催

第8回シンポジウムでのアンケートへの回答

第8回シンポジウムも、おかげさまで参加人数も多く、今回も総じて評価が高く、アンケート調査でも好評を得ることができ、これも皆さまの積極的なご参加とご協力のおかげと感謝しております。ただし、毎回ごわずかですが厳しいご意見も当然承っており、これらにつきましては、少数意見ということでないがしろにするのではなく、これらの意見こそ重要と考え、今まで通り真摯に対処していく所存です。

アンケートの中には、本学会の主旨とは異なるご意見のために本学会からの回答として対応できないものもございます。そのためすべてにお応えしているわけではないことをまずはご承知おきください。しかし、このアンケートにお答えいただくことは、今後の学会運営やシンポジウム、セミナーの開催にとっても重要なものでありますので、より多くの方から闊達なご意見を今後も頂戴したいと思っております。

これらのアンケート結果への回答は、毎回学会開催後1～2か月以内に増田会長をはじめとする学会運営委員にて会合を開き作成しております。しかし、作成後から発表にはタイムラグがあり、次回のシンポジウム、またはベーシックセミナーでの回答の発表という形になっており、もっと早い時期に皆さまに告知をしたいと思っております。また、これらの回答は、このように次の学会開始の時間に発表させていただいておりますが、この時間もできれば講演や質疑応答に回したいと思っております。そのため、前回のベーシックセミナーでも告知いたしましたが、今後は、アンケートへの回答は要点のみ学会開催時に発表させていただき、その他はHP上に更新していくこととしました。

アンケートへの回答は、ご意見ご批判に対してのみ返答しておりますが、一方ではご評価いただいたものや好意的なご意見はかなり多くいただいております。これまでこれらを公表しておりませんでしたので、この場を借りて御礼申し上げます。

加えて、すでに周知されていることと理解しておりますが、本学会の方針や主旨、過去の講演で解説している内容などに対するご意見、ご質問への回答は、毎回同じような内容になってしまうため、ある程度まとめさせていただき、これらもHP上に更新したいと考えております。したがって、可能な限り学会参加前に回答や過去のシラバスなどに一度目を通していただければと思います。

<講演内容について>

○基礎研究が多かった／基礎研究や人医系は1コマで／症例報告・臨床の話

シンポジウムの主旨は、学会創設時よりご参加の先生方には周知されていることと存じますが、あくまで普段得られない医学分野を中心とした免疫学の情報や研究、最新の知見を得ることにあり、またそれらに従事する講師の先生方の意識や姿勢に触れ、さらに質疑応答や交流懇親会などで直接意見を交わすことで、受動だけではなく能動的に我々獣医師がより飛躍する場になりたいというものです。

とかく獣医師は、狭い獣医業界でのみ物事を考え、獣医療でしか力を発揮しない研究や臨床で満足しがちです。その現状を打破するためにも、貴重な経験になるものと考えております。さらに、これらの先生を交えてCICを行うことで、より厳しく妥協の許されない議論が行えるようになりました。これらの体験は、それこそ明日の臨床にすぐに役立つものであり、どこをどのように役立てるかのスキルを身につけることこそ、肝要と考えています。したがって、シンポジウムはかなり高度な情報提供を行っております。

これに対しベーシックセミナーでは、獣医免疫学の基礎を学ぶと同時に、犬猫を中心とした臨床に役立つ講演や症例報告を行い、より身近な観点から勉強していこうという主旨を持っております。そのため、症例報告や臨床研究を集めた内容を毎回心がけております。

元々本学会では、免疫学を根本から学ぶと共に獣医師としての考え方や姿勢を高めていきたいと考えています。シンポジウムや各講演、技能講習、CIC、質の高い症例報告、交流懇親会、学会内容に連動した企業ブースやプレゼンなど、他学会とは一線を画す内容を行っておりますが、中でも安易に行われがちな根拠のない学会発表や講演、議論されずに発表される症例報告など、一見臨床にすぐにでも役立つような情報の提供こそ、むしろ危険と考え、結果的に現在のような形式となっております。このような情報も、本学会にご参加されることで、ご自身で検証・検討を重ねて取り入れていくということが周知されてきていると考えます。

もちろん、臨床の現場に即した情報は重要ですが、本学会ではまず第一に疾患を系統立てて考え、病態を理解することが今の獣医学には不足していると考えており、極力その部分の研鑽をしていきたいと考えています。第二に、個々の情報を淘汰する能力と利用する思考力が大切と考えており、この部分を伸ばすことを考えております。さらに、たとえ基礎獣医学や医学界の基礎研究や免疫にかかわる情報のように、一見臨床への関与が少ないように思える内容でも、その情報をどのように臨床に役立てるかが獣医師の資質と考え、この部分を研鑽していきたいと考えております。これらを踏まえたうえで、遠回りと思えるような方法でも根気よく勉強を続けていただき、本学会でも例示として症例などをより多くご紹介できる内容で考えていきたいと思っております。

これらの学会発表や症例報告は、常時募集しておりますが、ほとんど申し込みがございません。ぜひ、ご参加いただければと思います。また、技能講習を修了された先生には、症例報告やご講演をお願いするだけでなく、学会運営やシンポジウム・セミナーの運営にも携わっていただきたいと思いますと考えております。

○教育講演が難しかった

本学会会員の先生方には、ぜひこのレベルの教育講演を受けていただきたいと本学会では考えておりますが、あくまで人医分野であり、最先端の研究や知識であるという部分に難しさがあると思います。

「論文に関する解釈の仕方、論文の読み方について」の講演をご要望される方もいらっしゃいます。これに合わせて、研究発表の聴き方も含め、一度講演または学会誌などで取り上げようと考えております。

<技能講習>

○技能講習会の抄録で白黒のため色の見分けがつけづらく見にくいものがある。

現在もカラー原稿で HP にて公開しております（会員限定）。技能講習開催時には常にアップデートされておりますので、当日必要な方は誠に申し訳ありませんが、ダウンロードまたはプリントアウトしてご使用ください。

○必須用語／アレルギー、アトピー性皮膚炎等、講義の内容を一冊の本にまとめて出版されると、広く知識が認知されてよいのではないかと思います。

現在、某出版社より本学会監修のもと、獣医免疫学のテキストを作成中ですのでしばらくお待ちください。

○技能講習会の DVD が高い。

誠に申し訳ありませんが、元々、講習に参加できない先生方の救済措置のための DVD 作成であり、DVD 販売を収入源とはしてとらえておらず、ぎりぎりの金額で提供させていただいております。よってこれ以上のディスカウントが難しいことをご理解いただきたいと思います。

○技能講習制度の認定申請の課題について、30 症例に時間的な制約があるか。

期限はありません。尚、技能講習についてのご質問は、学会事務局までお問い合わせいただくか、または本学会 HP の技能講習制度、Q&A をご参照ください。

<CIC について>

○CIC について、簡単なもので構わないので、アジェンダのようなものがほしい。CIC に魅力を感じない。

大まかな議論の方向性についてのアジェンダは、司会の先生とご相談のうえ、一応作成しております。ただし、あくまで自由で活発な議論を望んでおりますので、その場の流れで大きく変わることもあれば、議論の白熱度合では一つのポイントに集中して時間を費やしたり、あるいは議論が不十分なまま次回に持ち越したりする場合がございます。予定調和では行かない試みであることに理解を深めていただければ、CIC の意義を感じていただけるといいますし、現実には高いご評価も多くいただいております。ただし、このご意見を真摯に受け止め、今後の CIC に反映させたいと思います。

○いわゆる“IBD”テーマがあいまいすぎて…話の内容もあっちへとんだりこっちへとんだり…最後まで

中途半端な印象です。「IBD」使わないって事で良いですか？

今回のテーマは、全く異なる病態であるヒトの IBD という病名を、何も疑問を持たずに使用してしまっている獣医療の現状に対し、人医分野からの外挿を安易に行う獣医療の 1 つの典型としてとらえ、どのように考え、どのように今後考えていくかを提言するために取り上げました。今回の IBD は不明な点が多く、まずは各分野のパネリストから広く情報や意見を引出し、皆さまで議論していただくことが重要だと考えております。

元々 CIC は、もちろん結論を導き出せばより良いと思いますが、結論を出すために行っているのではなく、他学会では行われることのない立場を抜きにした本音をぶつけあい、普段できないことの多い議論の場を設けること、そしてその議論に積極的にご参加いただくことで獣医療の疑問点を投げかけたいという主旨で行っております。また、1 時間の議論で済むような問題点を取り上げておりません。

さまざまな角度からの情報や意見、議論をお聴きになったうえで、当面の診療には IBD という言葉を使うのか、それとも使わないのかを各人でご判断いただきたいと思います。最終結論は、学術誌や権威あるその分野の学会が将来的に行うと考えます。

OIBD の定義の提案を HP に

以前の CIC も含め、その議論の過程と得られた結論を、一意見もしくは提言として、HP 上に掲載していきたいと思っております。

<その他>

○学会年会費とセミナーやシンポジウムの費用を同時に支払いたい。

年会費の納入は、学会参加費と同様にオンラインクレジットカード決済が可能です。誠に申し訳ありませんが、振込ではなくクレジットカードの使用が前提となりますが、こちらをご利用いただければ、手数料は学会負担となり、学会員や参加者の方に振込手数料をご負担いただく必要はございません。年会費のオンラインクレジットカード決済用の URL は、会費ご請求の際に、メールにてお知らせしておりますが、今後は会員専用ページにオンラインクレジットカード決済ページへのリンクを掲載することといたします。3 月末に 2014 年度会費の年次請求を行いますので、同時期に掲載開始とさせていただきます。

<今後取り上げてほしい内容>

○最新の臨床のお話を聞きたい（アレルギー性皮膚炎だけでなく、IMHA、IMTP、SLE、重症筋無力症など）／自己免疫性疾患（天疱瘡や IMHA など）について／皮膚や皮膚以外の免疫系疾患

○IV型アレルギーの皮膚症状の発症メカニズム／IV型アレルギーの存在がどうしてわかったのか？

○臨床の先生方の治療方針や要望をアンケートなどで把握していただきたい／症例を出して考えていくような形の症例検討

○食物アレルギーの最新状況（学術、臨床面）／犬アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、食物不耐

症の機序・診断／猫あるいは犬種に特化したアレルギー状態の特徴／減感作療法／ワクチンアレルギーについて／減感作療法

○巷で語られているアレルギーにまつわる話。たとえば食べるものを数種類ローテーションで使うと症状が出にくいなどの真偽をまとめて白黒つけてほしい。

○シンポジウムの講演から派生した人医分野でのご要望につきましては、すべてを本学会でフォローすることが不可能なため、医学分野での学会やセミナーへの参加、書籍や文献から各自ご研鑽いただきたいと思います。